

## 新型コロナウイルスによる死亡者対応から学んだこと

株式会社清月記  
事業推進室 西村 恒吉

世界的に猛威を振るった新型コロナウイルスは2021年11月現在、一時的なことなのかもしれませんが、一旦は落ち着きを見せています。葬祭業者としては、経営への影響もさることながら、新型コロナウイルスを死因として、もしくは感染している状態の「ご遺体」とどう向き合うのかが試されました。

コロナで亡くなった有名人が、感染予防の観点からご遺体への接触を避けるために、火葬を終えた遺骨の状態でご遺族のもとに返された、というショッキングな報道がなされ、その時点では宮城県では死亡者はまだおりませんでした。予め準備をしておかないと混乱するのではないかと考え、まずは行政機関や感染の指定病院に出向き、死亡者が出た際の対応について協議をいたしました。ご遺体からの感染は未知数であるものの、病棟に入ったり、間接的に触れたりということは避けられない状況の中で、安全かつ現実的な方法を共に考えて頂いた上で、基本的な対応としては、

- ①搬送対応者は最大限のPPE（個人防護衣）を着用し、病院の指示に従って棺を搬入する。
- ②医療関係者によって納体袋に納められたご遺体を納棺する。
- ③そのまま火葬場へ直行し、火葬する、という事になりました。

2020年の8月19日、初めての新型コロナウイルスによる火葬依頼が発生し、事前の取り決め通り、納棺後に火葬場へ直行しました。火葬場で待っていた故人の娘さん2名が立ち会ったのですが、仕方がないとはいえ、やはり最後に拝顔できなかった事が心残りだったとおっしゃっておいりました。入院中、面会も十分にできなかったのしょうから、事実を受け入れ難いということもあるのしょう。10年前の震災対応でも最後に顔が見られない寂しさや悲しみを抱えた方が大勢いたように、またこのような状況になるのかと感じました。それから2ヶ月あまりが経過し、2件目のご依頼からは、せめて棺の対面窓越しに最後のお別れができるよう、病院での納棺時に顔の部分を外すように努めました。リスクは増すかもしれませんが、火葬場で最後の対面をする事は何より大切なことだと考え、病院も火葬場もそれについては容認して頂いたものと思われます。感染防止の装備や消毒、遺族の人数制限や濃厚接触者の確認など、予防するために行う項目は数限りないのですが、ディフェンスだらけの火葬対応の中で、たった一つのオフenseが、対面の実施だったのではないかと思います。その後、ご遺体からは飛沫感染がないのでリスクは低いという意識が大勢を占めるようになりましたが、それでも感染防止の意識がコロナ前よりも向上したのは唯一の利点だったように思います。現段階では組合に加盟している会社によって半数以上の火葬対応をしておりますので、今後も情報交換を行います。



御寝棺内を整えています（北川）



大崎市民病院指定のお部屋へ



病院を出て火葬場へ（北川）

## 宮城県葬祭業協同組合 コロナ対策本部への報告書

宮城県葬祭業協同組合 県北支部 支部長  
株式会社北川 北川 宏道

東北初のコロナウイルス感染症の死亡者となりました。

大崎市民病院の指定病室（8106号室）にお棺（白布張り棺）・お別れ花（遺族の要望）・仏衣・草鞋を持参させていただきました。その後、御遺族様と打ち合わせを行い1週間後に打ち合わせの予定でしたが、帰社後に菩提寺様に弊社より連絡をして、日程の打ち合わせをしたところ御遺族様の御要望もあり1週間後の通夜・葬儀ということになりました。遺影はMailでデータを送信いただき作成、直接火葬場にお届けいたしました。葬儀に関しては近親者のみで執り行い、三密の回避、消毒を徹底し、感染予防に細心の注意を払い可能な限り御遺族様のご要望をお受けし、故人様をお見送りするお手伝いをさせていただきたいと考えております。

※特例といたしまして、御寺院様とお話し合いをし、今回はメガネ・マスク・ゴム手袋を着用いただき経を賜り、入退場の際には全身消毒をいただき対応させていただくようになりました。

※参列者もマスク・ゴム手袋の着用、式場への入退場の際は全身消毒で対応させていただきます。

基本的に納体袋にお入れして、納棺・お花をお供えしていただきますのは病院側の対応となります。棺もビニールテープで密閉していただきました。その後、火葬出棺前に御安置していた病室に私達がお迎えにあがり、通常の搬出口より寝台車へお顔は隠れるので一切拝見することはできませんでしたが、火葬場入口で小窓をお開けし、お花をお供えさせていただいた御寝棺内をご覧いただき各々お別れ、最後に棺蓋上へ花束をお供えしていただいております。斎場内への入場は感染予防のため御遠慮いただきましたので斎場入り口に祭壇を移設し御焼香いただきました。火葬中は近くの会食場で1時間ほど休憩いただきました。友引で本来は休業日でしたが広域へ問い合わせし14時の火葬を執り行いました。15時45分より古川斎場を運営している(株)倉島本店の倉島専務・尾花氏・私北川の3人で御収骨させて頂き喪主様に御遺骨・遺影をお渡しさせていただきました。自宅へは我々は同行せず小机に御遺骨・遺影を置いておき御線香とお茶・水だけ御供えくださいとお伝えしております。御遺族様が帰られた後、大崎広域行政事務組合の職員の皆様が消毒しておりました。

今回の故人様（宮城県56例目）は家庭内クラスターの方で他の御家族は退院しております。なお、病院側よりご遺体からの感染リスクはほぼ無いとの事ですが、濃厚接触者である遺族様（退院済み）に注意を払うように今後も対応をさせていただきます。



古川斎場到着  
大崎広域行政事務組合の皆様は  
防護服で対応



炉前の祭壇を火葬場の入口へ移動し  
ご焼香